

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	しもかわ たけあき	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	下川 丈明	物一非線形 D3	篠本 滋
Tel,Fax e-maill	Tel: 075-753-3763, e-mail: shimokawa@ton.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Bayesian estimation of the time-varying rate and irregularity of neuronal firing		
著者名	Takeaki Shimokawa and Shigeru Shinomoto		
会議名称 ・開催期間	Eighteenth Annual Computational Neuroscience Meeting (CNS*2009) 自 2009年 7月 18日 ~ 至 2009年 7月 23日		
開催地 (国、市)	Germany, Berlin		
出張期間	自 2009年 7月 18日 ~ 至 2009年 7月 25日		
国別参加者数	Germany, USA, UK, France, Italy, Japan など多数 計 575人以上		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>今回のドイツ・ベルリンへの出張では、国際会議 CNS*2009 において 20 分間 (議論含む) の口頭発表を行った。この国際会議は毎年行われ、これまでアメリカとヨーロッパで一年おきに開催されてきた。例年は 300-400 人程度が集まるそうだが、今回は特に参加者が多く、会議のウェブサイトによると参加登録人数は 575 人を超えるものであったということである。日程としては、最初の一日にチュートリアル、次の三日間でメインミーティング、最後の二日間で分野毎のワークショップが行われた。申請者はメインミーティングの一日目に発表を行った。メインミーティングはすべての参加者がホテルの大広間に集まって行われるため、口頭発表は競争倍率が高く (一日目には口頭での講演や発表が 10 件、ポスターは 187 件行われた。)、例年参加されている方によれば今回選ばれたのは大変名誉なことであるということであった。</p> <p>発表では、スパイク時系列のみから発火率と不規則性の時間変化を同時に推定するという新しい統計解析手法の紹介と、それを実験データに用いた解析の結果の紹介を行った。その後三人ほどから質問を受け議論を行った。主に今回の解析手法で仮定しているスパイクの確率的な生成モデルについての質問であった。</p> <p>そのセッションの直後には、学習理論の分野で有名であるサラ・ソーラから、今回の手法の数学的手順の確認と、その手法を使っての新しい研究の可能性について意見を交換した。発表についても非常によかったと言ってもらい、握手を求められた。知り合いのドイツ人の研究者からもよい発表だったと言ってもらった。質問をしてくれたドイツの大学院生などとは後日ポスター発表会場にて議論を行った。また、論文を送って欲しいとのメールでの問い合わせもあった。このように今回の GCOE の補助のもと行った発表では、これまでになく多くの人に研究を知ってもらうことができ、十分に成果をあげることができた。</p>			